

普通期米栽培管理情報

1. 生育状況

本年については梅雨入りが6月6日となり7月20日に梅雨明けしたものの、梅雨前半は晴天が続き、6月下旬並びに、7月6日、7日の豪雨後、8月9日まで降雨がほとんど無い状態でありました。本年度は晴天の影響から、生育旺盛となり、分けつが平年並〜多く確保できております。

病害虫については、いもち病は晴天が続いている為、発生が少なかったが、水不足の影響から日照りいもちが夢つくし、元気つくしを中心に発生が見受けられます。ウンカ類については、梅雨前線が九州にかかっていた為、飛来数が少なく、平年に比べ夏ウンカが少ない状態となっていました。秋ウンカの発生が徐々に増えておりますので、適期防除・田周りを行いましょう。

2. 水管理

出穂7日前（オオバラの時期）から出穂7日後までは深水管理を行う。出穂後は、間断灌水を実施し、水に余裕のある場合は、高温障害防止の為、夜間に水の掛け流しを行い、地温を下げ品質向上に努める。間断灌水の際、乾かしすぎ（白乾状態）に注意し常に土が湿っている状態を維持すること。また台風の接近等強風が予想される場合は、水分の蒸散を防ぐため、出来る限り深水を行う。

本年度は、分けつが多く確保できているので、屑米が増える可能性があります。充実向上の為、収穫一週間前の走り水を行いましょう！

3. 病害虫

①ウンカ・・・トビイロウンカ（秋ウンカ）が徐々に増えており、今後坪枯れ等が発生する可能性があります。今年は、カメムシと合わせて穂がくるぶく頃に同時防除を行う！！

使用薬剤 出穂期 コルター2号F粉剤DL 3～4kg/10a

又は、アプロードフロアブル 1,000倍

穂がたれる時期（カメムシに合わせて） キラップ粉剤 3～4kg/10a

又は キラップフロアブル 1,000～2,000倍

②いもち病・・・今後、曇雨天が続く場合と葉色が濃い圃場は発生が懸念されるので注意が必要。田周りをしっかりと行い、出穂前防除を心掛けましょう！！

使用薬剤 コルター2号F粉剤DL 3～4kg/10a

または、ノンブラスフロアブル 1,000倍

③紋枯病・・・昨年発生した圃場は発生が予想される。また、高温で発生を助長するため注意！！

使用薬剤 コルター2号F粉剤DL 3～4kg/10a

または、バリダシン液剤 1,000倍

④カメムシ類・・・毎年発生しているカメムシですが、品質低下の1番の原因となっている。必ず下記の通り防除を徹底しましょう。目安としては、穂がくるぶく頃が適期となる。

①稲の出穂前に畦畔の草刈りを行う。その際、雑草の穂が出穂する前に草刈りを行うことが重要。

②出穂14日後（乳熟期）頃に キラップ粉剤3～4kg/反

または キラップフロアブル1000～2000倍/反を使用し防除しましょう。

※農薬散布の際は、周辺作物等に飛散がないよう十分注意してください！！

※粒剤体系を使用する場合は水を溜め、防除適期の3日程前に施用して下さい。